第288回7月定例教育委員会議事録

委員会次第

1. 開会宣言
2. 教育長あいさつ
3. 会議録の承認
4. 審議事項
5. その他
6. 閉会宣言

開会日時

令和7年7月24日（木）午後3時40分

会場

安来中央交流センター 2階 第5会議室

出席委員の氏名

教育長	秦 誠 司
委員	平 野 千 恵
委員	青 砥 洋
委員	原 智
委員	寺 田 禎

出席者の氏名

教育部長	遠 藤 浩 司	全議題
教育総務課長	岩 崎 幸 志	全議題
学校教育課長	三 代 和 宏	全議題
給食教育課長	内 藤 有 里 子	全議題
文化課長	金 山 尚 志	全議題
教育総務課主査	加 藤 理 子	全議題
文化課主幹	高 岩 俊 文	議第11号
教育総務課主幹	徳 永 敦 雄	全議題

1. 開会宣言

午後3時40分 教育長が開会を宣言する。

2. 教育長あいさつ

(教育長)

学校訪問お疲れ様でございました。島田小学校、宇賀荘小学校、安田小学校の三校を訪問していただき、各学校の経営の方針等を伺い、質問等をしていただきました。ありがとうございました。

まずはじめに、7月8日に市町村教育委員会協議理事会に、県の副会長でございます原委員さんと私とでリモートでの会議にて承認の書面決議をいたしました。ご参加いただきありがとうございます。また、10月の6日に出雲市で研修会議が予定されておりますので、予定をしておいていただければと思います。また私の方は、7月17日、18日に中国地区市町村教育委員会連合会・倉敷大会の方へ参加をいたしました。その中で岡山県玉野市では小中学校の適正配置についての話、広島市海田町の議会を行っていることについてお話がありました。海田町の各学校より代表者を選び海田町の課題について考え議会で提言するもので、大変意義のある取り組みですが、小中学校の負担もかなりあるのではないかと思います。

また、18日には1学期が終了しましたが、児童生徒に大きな事故もありませんでしたが、連日猛暑日が続いておまして伯太川も干上がっており、布部・山佐ダムも取水制限を始めた模様でございます。

それと、前後しますが、7月16日は公益財団法人の日本公衆電話会から安来市内全小学6年生に向けて「こども手帳」をご寄贈いただきました。これは子どもたちの安全安心に繋がるものでございますので各校で有効に活用していきたいと思っております。

それから明日は雲伯教育長会を安来市が当番市として行われます。出雲、松江、安来、米子、境港、倉吉の教育長さんに和鋼博物館、やすぎ図書館、アルテピアの視察をしていただいた後、情報交換会をいたします。県域を越えた連携を図りましょうという趣旨であります。

3. 会議録の承認

第287回6月定例教育委員会

(承認)

4. 審議事項

- 1) 議第8号 教育長の営利企業等の従事について

(教育総務課主幹) 資料1により説明

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第11条7項、服務等に関する項目です。教育長は、教育委員会の許可を受けなければ、営利を目的とする私企業を営むことを目的とする会社、その他の団体の役員、その他人事委員会規則で定める地位を兼ね、若しくは自ら営利を目的とする私企業を営み、又は報酬を得て、いかなる事業若しくは事務にも従事してはならないとされております。このたびは、兼業許可申請により、2件の兼業に関し、教育委員会としての許可をいただくものです。まずは、島根県教育庁学校企画課長からの依頼により、島根県立安来高等学校、島根県立情報科学高等学校の学校運営協議会委員への就任です。期間は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までで、年数回の会の出席に対して、年間1万円を上限に報酬が支給されます。つぎに、島根県教育庁学校企画課長からの依頼です。期間は、令和7年6月29日から令和7年7月11日までで、この期間に数日、従事します。県の規程によった謝金の支給があります。

(承認)

2) 議第9号 安来市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則の制定について

(教育総務課主幹) 資料2により説明

改正理由として、組織機構の改編によるもので、改正の概要は、社会教育及びスポーツに関する事務について補助執行させております地域振興課が令和7年度の組織改革により、政策推進部から市民生活部へ移管されたことによる改正です。施行日は、令和7年4月1日にさかのぼりとなります。新旧対照表ですが、右側の改正前において補助執行させる職員として「政策推進部長及び政策推進部の職員」となっているものを左側の改正後において「市民生活部長及び市民生活部の職員」と改正します。

(承認)

3) 議第10号 令和6年度安来市教育委員会点検・評価報告について

(教育総務課主幹) 別冊資料3により説明

この点検・評価につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び施行状況について、毎年教育委員会が自ら点検・評価を行い、その結果

に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられているものです。

令和6年度の総括として、令和2年に感染確認がなされた新型コロナウイルス感染症が、感染法上の5類に引き下げられたことによるアフターコロナへの移行、第4次教育振興基本計画を受けての教育施策の展開から始まりまして、小中学校適正配置に向けた取り組みとしては地域の合意形成を目的とした「再編地域協議会」の立ち上げ、また、学校運営協議会の全小中学校への設置、教職員の働き方改革の内容、GIGAスクール構想に基づくICT活用の推進、学力調査の状況や学力向上に向けた取り組みの成果、不登校児童生徒対応等、学校教育に関する諸事情について記載しています。文化課の関係としては、和鋼博物館の機能強化に向けた展示改修基本構想・基本計画の進捗、給食教育課に関しては、物価高騰の影響による食材費の上昇に対する対応等について記載しております。

さらに、この教育委員会につきまして、定例会並びに臨時会で合計13回の開催、学校訪問の実施、委員の資質向上を目的とした全国市町村教育委員研修への参加などについて記載しています。

続きまして教育委員会会議の開催一覧、議論した事項の一覧表でございます。

続きまして教育委員会各課の主要事業について、その概要、経費、事業実績、そして事業を振り返っての課題や今後の方向性等について確認し、まとめたものです。委員会会議で何らかの議題となった事業もありますが、そうでないものもありますので、ご不明な点、また今後に向けてお気づきの点などがありましたら、お知らせください。

最後に、点検評価に対して、外部の方からご意見を頂戴しております。この点検評価を行うに当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」ことが定められており、本年度は、雲南市立久野(くの)小学校長、安来市立社日小学校長を歴任され、校長をご退職後も長く安来市教育委員会で指導講師として教育行政に従事されました安部寛子さんをお願いをしたところでした。例えば小中学校の適正配置について、「計画に沿って着実に進展している。これは地域への情報発信や丁寧な説明により、市民の関心が高まり理解が得られたことによる成果であると評価できる。今後とも地域の声に耳を傾けながら、計画の実現に向けて引き続き具体的な取組を進めていただきたい。」といったコメントや、教職員の働き方改革については「今後も保護者や地域の理解・協力を得るとともに教職員の意識改革を進め、『教職員が自信と誇りを持って働ける学校づくり』のために支援をお願いしたい。」GIGAスクール構想にお

いては、「デジタルとアナログの本質を見極め、それぞれの強みを生かすことで、子どもたちが確かな学力をつけていくような取組を推進していただきたい。」といったコメントをいただいております。

このほか、点検・報告書の各項目に沿って、ご意見をいただいておりますので、併せてご覧いただければと思います。

(承認)

4) 議第11号 安来市文化財指定について

(文化課長) 追加資料4により説明

安来市文化財保護条例第4条第1項では、「教育委員会は、安来市内にある文化財のうち、重要なものを安来市文化財保護委員の会の審議を経て、市指定文化財に指定することができる」と規定しております。このたび、新たに市指定文化財とすることについて、安来市文化財保護委員の会に諮問し、答申を受けましたので、教育委員会で指定についてご審議いただくものであります。今回、ご審議いただく物件は、「加納辰夫文書」です。7月2日に開催された安来市文化財保護委員の会において、教育長から「加納辰夫文書を安来市指定文化財とすることについて」安来市文化財保護委員の会会長に対して諮問しました。3月27日の定例教育委員会において、既に経緯など詳細をご説明しておりますが、加納辰夫文書は、昭和24年から昭和33年までのフィリピン日本人戦犯の赦免を訴えフィリピンのキリノ大統領やローマ法王などに送った書簡とその返書など加納辰夫による平和運動の記録242点です。個人蔵ですが、公益財団法人加納美術振興財団が管理する加納美術館に寄託されています。第二次世界大戦後の戦犯問題に日本人がどのように対応したかというテーマのまとまった資料であること。日本とフィリピンの間に国交や外交関係もなかったため、これらの名簿類は当時の日本にあって稀少で、かつ最も精度の高い戦犯情報と考えられること。フィリピン側や外務省における助命運動に影響を与えるなど国際的で政治的な広がりをもつこと。本資料を通して知られる加納辰夫の平和思想は、「安来市平和のつどい」に継承され、平和への意識を絶やさない取り組みへと繋がっていること。

以上、加納辰夫文書は、高い学術性を有し、日本人戦犯問題と民間平和外交に関する稀有な個人文書であり、安来市の文化財として後世に継承すべき遺産であるとの考えを示しております。文化財保護委員の会において審議がなされ、文化財保護委員会の足立会長から、教育長に答申書が手渡されました。答申は加納辰夫文書の指定について異議がないという

内容でした。なお、「教育委員会において、加納辰夫文書の活用により平和教育を推進するとともに、安来市はもとより世界に向けて情報発信すること」という附帯意見をいただいております。文化財保護委員の会から「指定に異議無し」との答申を受け、この教育委員会のご審議ということになりますが、決定しますと安来市文化財保護条例第4条第3項の規定により、本日付けで記載のとおり教育委員会告示を行うこととなります。なお、今回指定されますと、現在指定されている市指定文化財は57件となることを申し添えます。

(委員)

安来市指定文化財の管理は加納さんがされるものですか。

(文化課長)

文化財については基本的には所有者が行うこととなります。それを行政が支援するという立場となります。

(委員)

支援とはどのようなことをされますか。

(文化課長)

傷んだ箇所の修復費用を補助したり、所有者が変わったりした時にはきちんと把握して、適切に維持保存されるように指導をします。

(教育長)

所有者は財団法人ではなく個人所有ということになりますか。

(文化課長)

はい。個人所有です。

(委員)

データの形での保存でしょうか、現物を見る手段はありますか。

(文化課長)

現物はファイルに綴じられておりますので直接見ることは難しいですが、一般の方は、それを写真で写した資料をご覧いただく形となります。一部は本として刊行されており、美術館や図書館に収められております。

(委員)

「世界に向けて情報発信を」とありますが、この本はインターネット上で見ることは可能ですか。

(文化課長)

本自体をインターネット上で閲覧することはできません。ただし、ホームページ上ではご紹介をしており、書簡については宛先ごとに何点ありますという形では載せております。

(承認)

5. その他

- 1) 安来市小中学校適正配置について

次回定例会

8月28日(木) 13:00から

6. 閉会宣言

教育長が午後4時50分閉会を宣言し、7月定例教育委員会の日程を終了した。

以下、会議の次第を記録し、その相違ないことを証するため署名する。